

産業構造審議会 製造産業分科会 車両競技小委員会（第14回）

議事録

日時：令和2年6月15日（月曜日）14時00分～16時00分

場所：経済産業省別館1F 104各省庁共用会議室

出席者

岡委員長、大西委員、絹代委員、古野委員、松田委員、三屋委員、山本委員

岩城オブザーバー、奥野オブザーバー、佐久間オブザーバー、笹部オブザーバー

議題

1. 競輪・オートレースを巡る最近の状況について
2. 新型コロナウイルス感染症対策関連について
3. 「競輪の持続的発展のための課題解決に向けて－具体的な取組のための制度設計－」の進捗状況について
4. 「競輪事業の持続的発展に向けた中期基本方針」の現状及び最近の取組について

議事内容

○三浦室長　それでは、定刻より少し前ではございますけれども、委員の皆様方おそろいでございますので、ただいまから産業構造審議会製造産業分科会車両競技小委員会を開催いたします。

本日は、御多忙のところをお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

6月1日付で車両室長に就任いたしました三浦と申します。よろしくお願いいたします。

前回の小委員会におきまして久保委員長が退任されたことから、今年3月に小委員会の皆様による書面投票によりまして岡委員が委員長に選出されております。

それでは、ここで岡委員長から一言御挨拶をお願いします。

○岡委員長　このたび車両競技小委員長に選出されました岡俊子でございます。この小委員会には平成25年から関与させていただいておりまして、その間、競輪売上げが底を打って、最高会議を中心とした一つの競輪事業体というものができて、さあ今からというところでこのコロナ禍が起きたということでございます。今後、世の中の仕組みが大きく変

わっていくものと見られますけれども、それを踏まえた上でアフターコロナ、これの競輪事業の在り方を議論する必要があると思います。それが次期中期基本計画策定にも重なっておりますので、今は大切な時期にあると思っております。

皆様には御協力をいただきながら務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

○三浦室長 ありがとうございました。

本日は、公務御多忙の中、牧原副大臣に御出席いただいております。

それでは、牧原副大臣、御挨拶をお願いいたします。

○牧原副大臣 本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。岡委員長始め委員の先生方には、この大事な産構審の車両競技小委員会に御出席を賜って、心より感謝申し上げます。

私、個人的には、国会議員で競輪を応援する議員連盟の事務局長を拝命しておりまして、地元が大宮で、大宮に競輪もありますし、また今日、奥野新理事長お越しでございますが、埼玉県知事が会長をやり、そして今、埼玉県の副知事だった奥野さんが理事長をやるという関係もございます。副大臣就任後も、競輪・オートレースは大変高い関心を持って見させていただいていますところ、今日、こうして新しいステップに向けた小委員会をやれるということは大変うれしく思って、今日は参加をさせていただいている次第です。

そしてまた、新型コロナウイルス感染症につきましては、皆様の御協力によって緊急事態宣言を解除するということに至ったことについて、まずは感謝を申し上げますとともに、とにかく今、北京あるいは韓国もそうですけれども、第2波ということが起きているところが現実にありますので、その備えを含めて感染防止を徹底して継続していくことが必要ですので、御協力をお願い申し上げます。

そして競輪・オートレース業界においても新型コロナウイルスの感染拡大の影響は大きいということは、皆様がお感じになっておられると思います。特に競輪については、GI、日本選手権を始め開催が相次いで中止になったということによって、4月以降の売上げが著しく減少するというのが現実です。このような状況の中、明るいニュースもありまして、6月3日には東京オリンピックの正式種目である自転車トラック競技に出場する選手6名が決定をしたところです。ワールドカップや世界選手権での優秀な成績を残している皆様であり、来年必ず行われるであろう東京オリンピックでの活躍を期待されるところでもございます。

また、新型コロナウイルスの影響が深刻化する前の令和元年度における売上げは、ミッドナイトレース等の開催など、これまで継続的な経営努力をしていただいたことが実を結んで、競輪は6年連続、オートレースは3年連続で増加を続けているところです。5月29日には専門家の意見を取り入れた自主ガイドラインが策定・公表されて、これを踏まえ、それまで中止していた全ての施行者が無観客でのレース再開に向けて取り組み始めているところでして、先週の金曜日の佐賀県武雄市でのレースを皮切りに、有観客でのレースも順次再開する方向で進んでいると伺っているところです。

新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すとともに、一日も早い正常なレース開催に戻していくことが重要であり、より一層の成長軌道を取り戻していくことが重要であると期待をしております。政府としても、新型コロナウイルス対策に最大限の支援を行っていきまして、雇用調整助成金などの特例措置の拡大や最大200万円の持続化給付金などの資金繰り支援も行ってきたところです。

また、先週の金曜日12日には第二次補正予算が成立したところでありまして、さらなる支援の充実を図る予定です。特に競輪・オートレースを始めとする公営競技関係業種については重大な影響を受けています。例えば競輪場等の実際の窓口運営をしている会社の方など壊滅的な打撃を受けているという話を受けまして、従来は政府系金融機関や信用保証協会による信用保証の対象ではなかったのですが、歴史上初めてその対象にさせていただきました。今後も業界の皆様に寄り添ってしっかりと支援をしてまいりたいと思っています。

こうした状況の中、本日の小委員会では本年度の最終年度を迎える中期基本方針について、次期方針の柱とすべき論点や今後の競輪・オートレースの方向性について御議論をいただく大変大切なものです。これまでのさまざまな御努力により売上げが年々伸びてきた中で、新型コロナウイルスによる打撃に直面した競輪、そしてオートレースの未来にとって、本日の議論はいつも以上に未来にとって重要な意義を持つものと考えております。施行者が行う公務であるとともに、その売上げの一部は新型コロナウイルス感染症の予防等の公益推進事業にも活用されるという認識のもと、競輪・オートレースの公共性を再認識しつつ、忌憚のない御意見を賜ればと思いますので、どうぞ本日はよろしくお願い申し上げます。

○三浦室長　　牧原副大臣、ありがとうございました。

なお、牧原副大臣は他の公務がございますので、こちらで御退席となります。あらかじめ

め御了承ください。

では、以降の議事進行につきましては岡委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○岡委員長 ありがとうございます。

まず、委員の退任について御報告いたします。藤井委員、村山委員、牧田委員は、任期満了に伴って退任、三井委員からは、退任の申し出がございまして退任となりました。

次に、委員の就任について御報告いたします。根岸委員、松田委員、山本委員、この3名の方には新たに御就任いただきましたけれども、今日、根岸委員におかれましては御欠席の報告をいただいております。それから、オブザーバーとしてJKA・笹部会長、日本競輪選手会・佐久間理事長、全国競輪施行者協議会・奥野理事長、全国小型自動車競走施行者協議会・岩城事務局長に御出席いただいております。なお、松田委員におかれましてはリモートでの出席になります。また、三屋委員におかれましては、14時50分ごろに所用で中座いたします。

それでは、新たに委員になられました松田委員と山本委員から一言御挨拶をいただければ幸いです。

まず、松田委員お願いいたします。

○松田委員 初めまして、福岡県の福津市で副市長をしております松田でございます。

福津市は、人口6万7,000人の自然豊かなベッドタウンで、福岡市と北九州市に挟まれております。私どもの自治体では公営競技はないのですが、自治体として事業をどのように地域活性に生かしてやっていくかという視点でお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。

○岡委員長 ありがとうございます。では、山本委員お願いいたします。

○山本委員 皆さん、こんにちは。今回から委員を務めさせていただきます山本将利と申します。

私自身は、多分この中で一番競輪の車券を長く買っている人という自己紹介をさせていただきます。会社に入ってから、主に自治体のコンサルティングをやってきたのですが、その中で、競輪はその一部門であるということで、施行者の経営の支援などを業務として手がけてまいりました。

そもそも競輪ファンですので、売上げが長く落ちていた時代というのは非常に寂しくも思いましたし、今、ミッドナイト始め売上げが回復し、施行者の皆様始め関係者の皆様の

努力により、競輪に明るい兆しがみえているのではないかと思っているところです。お客さんを長くやっていたことが少しでも役に立つように努めてまいりたいと思います。ぜひどうぞよろしくお願い申し上げます。

○岡委員長　　よろしくお願いいたします。

松田委員、山本委員、どうもありがとうございます。

それでは、本日の議題なのですが、当初お配りしております議事次第、ここに4つの議題がございます。私からも1枚資料を配付しておりますので、少しこちらを使って御説明させていただきたいと思いますので、iPadの資料の岡委員提出資料、こちらを御覧いただけますでしょうか。

この1枚の中に、今日御議論いただきたい論点の位置づけをまとめております。今見ていただいているパワーポイントの資料は2015年から始まっておりますけれども、2016年6月30日のところにある中期基本方針、これが議題4の「競輪事業の持続的発展に向けた中期基本方針」の現状及び最近の取組についてというところのもともとの資料となります。これは競輪最高会議が取りまとめました中計、民間で言うところの中計で、数値目標はここに書いてある4つで、現在、「本日」とありますけれども、ちょうど4期目が終わったところになります。売上げが少しずつ増えてきておりまして、当初目標の7,000億円以上というところに近づいてきているという状況です。

その下に目を移していただいて、2018年7月、制度設計とありますけれども、これが議題3の「競輪の持続的発展のための課題解決に向けて－具体的な取組のための制度設計－」の進捗状況についてということで、これは特に競輪最高会議の抜本的強化、責任と権限の明確化、これが議論されたものでございます。

今日は2部構成で進めたいと思います。前半は競輪事業の現況と新型コロナウイルス感染症対策について御報告をしていただきます。ちょうど2019、2020、このあたりの状況ということです。これについて皆様から御意見を頂戴したいと思います。後半は右下にある論点、この2つの論点について議論したいと思っておりますけれども、まず1つ目は、最終年度に入った今の中計について、競輪事業の在り方を含めてどのように評価するか、現中計の評価です。もう一つが、施行者によって新型コロナウイルスの対応にばらつきがあるということが後で御報告があると思いますけれども、これを踏まえて次期中計の方針にはどういう論点を盛り込むべきか、この論点が後半の議論になります。

それでは、議事に入る前に、本日の小委員会における取扱いについて委員の皆様にお諮

りいたします。事務局から説明をお願いいたします。

○三浦室長 説明させていただきます。

初めに、この委員会は、これまでと同様にペーパーレスで実施をいたします。メインテーブルの皆様におかれましては、お手元のiPadにて資料を御覧ください。オンラインで参加しております松田委員へは、ウェブで資料を投影いたします。資料は、議事次第、委員名簿、座席表、岡委員長提出資料、そして本日の４つの議題に沿いまして資料１－１、１－２、資料２－１、２－２、資料３－１、３－２、資料４－１、４－２となっております。

なお、一部非公開資料が中に含まれております。今回の議題の中で言及された内容、御発言につきましては、競争上の観点から競輪・オートレース事業の運営に支障が生ずる可能性はないと考えますので、非公開資料部分の御発言を除きまして公開したいと考えております。この場合、議事要旨につきましてはこの小委員会終了後速やかに公開、議事録におきましても、小委員会終了後１箇月以内に公開させていただきたいと考えております。

以上です。

○岡委員長 ありがとうございます。

今の事務局の説明について、御異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○岡委員長 ありがとうございます。

それでは、本日の議事に入りたいと思います。

まず、二部構成のうち前半部分になりますけれども、先に議題１の競輪・オートレースを巡る最近の状況について、事務局及びＪＫＡから説明をお願いいたします。

まず事務局、お願いいたします。

○三浦室長 それでは、資料１－１を御覧いただけますでしょうか。競輪・オートレースを巡る最近の状況についてという車両室作成の紙でございます。

１枚めくっていただきまして１ページ目、こちらのほうには競輪の売上げと本場入場者数の推移を棒グラフと折れ線グラフで示してございます。棒グラフが売上げでございまして、平成25年の6,063億円を底に、以降、令和元年の6,605億円まで６年連続で上がっております。一方で折れ線グラフの本場入場者数につきましては、年々減少ということでございます。

その次のページは競輪施行者の営業活動収支を示してございます。競輪は43施行者ございますけれども、設備投資を行った１施行者のみが赤字でございまして、他の施行者は黒

字となっております。全体の黒字は直近の令和元年度で169億円ということになってございます。

次のページが43施行者の営業活動収支の状況を棒グラフで示してございます。凸凹はありますけれども、黒字になっているということでございます。

次のページは売上げ構成の推移を示した棒グラフになっておりまして、レースのグレード別に表してございます。上のほうがGⅠ、GⅡ、GⅢというランクの高い選手が出場するレースでございまして、こちらのほうは横ばい傾向で安定推移しております。一方で一番下の青いところは普通の選手が出場するレースでございます。こちらのほうはずっと低迷しておりましたが、平成26年から、オレンジの部分が見えると思うのですが、ミッドナイトレースを開催することによりまして新たな顧客をつかむことができ、逆に右肩上がりで推移しているという状況にございます。

次のページへ行っていただきまして、売上げの販路別の構成の推移を示した棒グラフでございます。こちらは令和元年度を見ますと、一番上の紫のところを見ていただきますと、全体の55%弱がインターネットによる販売の売上げとなってございまして、一番下の青いところ、本場に来て車券を買われるという方は全体の3.2%にすぎないという状況にございます。

次の6ページ目を見ていただきますと、売上げが伸びているミッドナイト競輪の売上げの推移を示してございます。売上総額が直近で939億円を超えるレベルまで上がってきておるということでございます。

次の7ページ目がガールズケイリンということで、女性の競輪選手が増えてきたことによりまして女性だけのレースが開催できるという状況になっております。こちらのほうが男性のA級に比べて1レース当たりの売上げも高く、非常に人気が出てきているということがうかがえるわけでございます。

以上が競輪でございます。

8ページ目以下がオートレースの状況でございまして、こちら規模は小さいですけども競輪と同じような状況でございまして、棒グラフの売上げは3年連続で伸びてきている一方で、本場来場者数は年々下がってきているということでございます。

次のページが施行者の営業活動収支でございまして、オートレースは5施行者おりますけれども、全ての施行者が黒字になっているという状況にございます。

次の10ページ目は施行者ごとの営業活動収支でございます。飯塚の3.22億円を筆頭に全

ての施行者が黒字になっております。

次の11ページ目でございますが、オートレースのグレードレース別の売上構成を示しております。上の3つがSG、GI、GIIといったランクの高い選手が出るレースでございますが、こちらも競輪同様、安定して推移しているということでございます。一番下の紫のところがあり有名でない選手が出る普通レースでございますが、こちらも競輪と同様伸びておりまして、ミッドナイト開催が影響しております。どれぐらいミッドナイトレースが伸びているかというところは示していないのですが、要因としてはそういうことでございます。

次のページが販路別の売上構成でございます。こちらも競輪と同じなのですが、全体の60%弱がインターネット投票になってございます。競輪と若干違うのは、一番下の青いところを見ていただきますと、まだ15%弱が本場での上場ということでございます。

次の13ページ目がミッドナイトオートレースの上場の推移でございまして、平成30年度から令和元年度にかけて急激に伸びているという状況でございます。オートレースの場合、騒音の問題があるのですが、消音器をつけながら近隣の住民に配慮することによりまして、着実にレースの数も増えているということでございます。

以上が競輪・オートレースを巡る最近の状況でございます。

○岡委員長 ありがとうございます。

近年、元年までは伸びてきていると。特にインターネットとミッドナイト、それから普通レースも伸びてきているというお話だったと思います。

では、笹部会長、競輪・オートレースを巡る最近の状況についてお願いいたします。

○笹部オブザーバー それでは、まず資料1-2、競輪・オートレースを巡る最近の状況につきましては2点ほどございます。1点目が東京オリンピック延期を踏まえた250KEIRIN、また、車両情報システムにおけるシステム障害について御報告申し上げます。

ページをお開きください。1ページでございます。左のほうが当初予定ということと、右についてはコロナの影響によるスケジュールの変更という部分で、特に右側のほうで見いただければと思います。今現在建築が進んでおりまして、来年の3月、千葉公園ドーム完成という予定を示したものでございます。また、2021年5月、ここが250KEIRINのスタートというセットで、今現在、2ページに掲げてありますとおり、課題を整理した内容が以下の内容となっております。とりわけ選手の養成ですとか広報宣伝、場内演

出といった今までにない、現行の競輪とは違うことがさまざま生じてきております。関係者と連携を進め、さらに状況を進展させていく予定となっております。

J K Aでは、新しい競輪を実施するという意味では、また経産省の御協力を得ながら業務規程、規則整備をしていかなければいけないわけですが、特に250KEIRINに参加する選手の講習会を既に伊豆のJ K A 250、これにつきましてはまた後ほど御説明申し上げますが、昨年の7月に竣工いたしました新たな屋内型の訓練専用バンクで講習会を行っておりまして、年度内に600名ほど養成する。これは今現在走っているプロの選手を250KEIRIN用に検定を行う、こういう段取りで考えております。

御承知のとおり250KEIRINにつきましては、国際競輪、いわゆる世界基準のルールにのっとった新しい競輪スタイルを出すわけです。かつエンターテインメント性等々屋内の250KEIRINにふさわしい演出を加えながら、年間50節100日を目標に開催運営をしていきます。特に現行の競輪と特徴づけを明確にしていかなければいけないということで、まずはシンプルなレースの提供、そして初心者でも十分楽しめる競輪スタイル。また競技運営面におきましては、規模をなるべく小さくし、参加選手は36名、2日制、しかも1人の選手が1日2回走るということ。それと、1日12レースということ。さらに、前検日において参加選手の200メートルのラップ、タイムトライアルを計測し、それらを参考にした予想をしていただくという新しい方式で、現行競輪と特徴を分けるというアピールで臨む計画であります。

内容につきましては、次の3ページにイメージとしてトラックパーティー。これは伊豆の来年オリンピック会場となります伊豆ベロドローム、こういう雰囲気の中で、千葉で行おうという考えでございます。また、右のほうの映像、音、光、これも現行の競輪とは本当にかけ離れた異次元の世界を創り出していこうという考えで、イメージを示したものでございます。

下の4ページでございますが、これが先ほど申し上げました昨年竣工いたしました訓練用の屋内トラック250ということで、観客席はございません。屋根がついているだけの、とにかく訓練専用施設ということでございます。伊豆の地にはこのような250mの競走路が2つ、世界に類を見ない恵まれた環境となったということでございます。

続きまして、5ページのほうでございます。これは先ほど御報告がありましたとおり6月4日に新聞等々で発表をしておりますが、競輪選手が男子ケイリン・スプリント、脇本選手、また同じく新田選手、女子ケイリンでは小林優香選手。また、中距離種目として競

輪選手であります橋本選手。また、女子オムニウム・マディソンでは筑波大学の梶原さん。また、同じく女子マディソンで中村さんということで、6名の選手がオリンピックの世界ランキングを勝ち取りました。実施国の優先はないという競技でございますが、見事勝ち取ったということで、来年のオリンピック、男女共に活躍が大変期待されるということで期待をしております。

続きまして、7ページでございます。これは今御説明したものと趣が全く異なります。内容につきましては障害事案でございます。発生日は昨年10月3日から4日にかけて起こりました。2日間にわたるシステム障害ということで、多大なる御迷惑をファン始め関係者におかけしましたこと、この場をお借りしまして改めておわび申し上げます。再発防止を講じながら今現在信頼回復に努めているものでございます。原因につきましては、システム開発事業者作成の業務マニュアルとシステムの仕様の不一致により選手あっせんに係るデータの重複が発生し、夜間にシステムが自動で行う定例処理が異常終了したためです。さらにシステム開発事業者の復旧作業が正しい手順で行えなかったというような初歩的なミスが重なったことでございます。したがって、再発防止のためのシステム改修やチェック機能の開発等々、徹底して安定運用を今後図っていくと、このような状況でございます。

以上が資料1－2の関係でございます。

○岡委員長 ありがとうございます。

250KEIRINの状況とシステム障害について御報告いただきました。

それでは、続きまして議題2に関する取組について、また事務局とJKAから説明をお願いいたします。

では、事務局から。

○三浦室長 資料2－1を御覧いただけますでしょうか。新型コロナウイルス感染症対策等についてという車両室作成の資料でございます。

1枚めくっていただきまして2ページ目でございますけれども、国による競輪・オートレース業界に対する支援策についてまとめた1枚紙でございます。御案内のとおり、これまで、景気が悪くなったときに政府は資金繰り支援ということで政府系金融機関による無担保・無保証の融資でありますとか信用保証協会による保証といったものを講じてきたわけなんですけれども、先ほど副大臣の挨拶にもありましたとおり、コロナ関連の影響が余りにも大きいということで、競輪・オートレース業界につきましても政府の支援対象にす

るということで、5月15日より実際に運用を開始してございます。下半分にはございますと
おり、資金繰り支援と給付金の創設、全体で5兆円以上の政府の資金供給がなされたりす
るわけなのですが、これらの支援が受けられるということでございます。

次のページ以下がそれぞれの支援策の中身でございますので、説明のほうは省略をさせ
ていただきます。

10ページ目を開けていただけますでしょうか。新型コロナの緊急事態宣言期間中におけ
る公営競技の開催状況をまとめた紙でございます。下の表を見ていただきますと、中央競
馬、地方競馬、ボートレース、オートレース、こちらの公営競技につきましては無観客で
開催を継続したということでございます。一方の競輪につきましては、開催予定がありま
した39場中8場で開催をしましたけれども、それ以外の場につきましては中止を決定した
という状況でございます。結果として、予定の半分以上を中止したということでござい
ます。

次のページ以下が、では、実際に競輪の各場がどのような状況だったのかというのが11
ページ、12ページ目にまとめてございます。上のほう、類型が1から9までずらっと細か
く書かれておりますけれども、ざっくりと申し上げますと、類型1が、全く中止をしない
で無観客でやった施行者。類型が下に行くほど中止の期間が長かったというふうに御理解
をいただければということでございます。真ん中以下にそれぞれの類型ごとに施行者を表
しておりまして、類型1は川崎、岸和田、北九州、伊東、玉野、広島、武雄、佐世保とい
うふうになっておりまして、類型2、3、4とずっとありまして、次のページ、類型の6、
7、8、9というのは中止の期間が長い自治体になるのですけれども、一番上の類型6の
埼玉県を始め、松戸、平塚あるいは京都。類型7、8、9というのは、函館、前橋あるい
は富山、青森、松山といったところでございまして、コロナウイルスの感染者が少なかっ
た地方都市をどう中止の判断をしたかというのが傾向としてお分かりいただけるかと思
います。

以上でございます。

○岡委員長 ありがとうございます。

公営競技というのは自粛要請に入っていなかったと。他の公営競技は開催をしていて、
競輪については開催についての決定権が施行者にあるということもあって、結果として施
行者ごとに対応にばらつきが出たという理解でよろしいですかね。

○三浦室長 そうです。

○岡委員長 ありがとうございます。

では、J K Aの笹部会長から、これはJ K Aとしての報告ですね、お願いいたします。

○笹部オブザーバー それでは資料2-2、内容といたしましては3点ほどございます。業界におけるガイドライン策定について、またサテライト等への側面支援、J K Aの補助事業の報告という内容のコロナ関連でございます。

1 ページお開けください。上段のほうから、2月以降のそれぞれの緊急事態宣言を含む現在に至るまでの間、さまざまな状況乗り越えまして、ようやく6月1日あたりから徐々に無観客、または一部開催においては有観客、また現在に至っては、民間サテライト場のある程度の再開というめどが立ちながら現在に至っている状況と。ただ、やはりいろいろな問題が生じたということで、まず2月27日。無観客ということにつきましては、競輪・オートレース業界は既に正常の中でも無観客は実はミッドナイトという形で行っていたわけですので、これについては特段の違和感がなく全ての開催を無観客で行ったということであったのですが、真ん中にあります4月7日、7都道府県、さらにその後全国への緊急事態宣言ということで、それ以降、開催中止の拡大が全国に広がり、また、その収束を見ながら緊急事態宣言が段階的に解除、現在に至っているという状況でございます。

なお、この問題につきましては、とにかく現場でクラスター化を起こさない、また感染をもらわない、うつさない、そういう基本的な考えの下、政府の基本対処方針にのっとったガイドラインを業界として策定し、現在に至っております。内容的には、感染拡大防止策にさらに万全を期すためということで、まだまだ全場が有観客でお客様を迎えるというところには至っておりませんが、段階的な開場を考えていくという流れになっております。

2 ページ目につきましては、それら状況でございます。上段に、既に6月12日、6月13日から武雄、玉野競輪場は有観客で行っていると。また中段には、6月、7月、8月の中で競輪・オートレースが順次有観客でお客様をお迎えするという状況になっております。ただ、実際オートレースは6月、7月でほぼほぼ有観客という形になるのですが、御覧のとおり、競輪場は全国に43場あります。一部施設改修等々で開催がないところが3場ほどあるわけですし、今現在、開催を抱えているのはおおむね40場程度。その中でもまだ再開の予定が立っていない、または発表が正式にできないという状況が、一部この数字に表われております。

一番下が専用場外、民間サテライトを含む場外でございますが、6月11日現在の数字は57発売所であったということで、72発売所のうち、今現在、おおむね60程度が発売をかけ

ているという状況でございます。

続きまして、3ページを御覧いただきたいと思います。コロナに対する側面支援ということで、JKAといたしましては、まずは3箇月を超えて閉鎖していた民間サテライト場に対しまして、側面支援として1場当たり100万円の支援を、いわゆる調査研究という形で、3箇月を超える閉鎖に対して近隣のお客様がどういうお気持ちであったのか、どういう考えに変わったのか、そういったようなお客様の動向変化、意識調査をやって新たな集客の一助の方策を探るということで、今現在、民間設置者60箇所にこの支援を決定しております。

また、これらサテライトにつきまして、3月、4月のシステム利用料、一切発売をしていない関係につきましては、関係団体として業界決定して、この部分については凍結するという決定をしております。

続きまして、下の4ページでございます。内容的にはコロナ感染防止に取り組む事業ということで、競輪・オートレースの社会貢献事業の必要性が問われるわけですし、若干時期がずれたものの、5月11日に募集を開始し、今現在250件ほどの問い合わせ、既に2件の交付決定。今、審査手続中31件を審査し、近々決定をしていく運びとなっております。総額は1億円ということで、随時募集として今現在も受け付けております。さらに第2波を想定した対応といたしまして、通常、補助事業につきましては8月1日を予定しておるのですが、1箇月前倒しをいたしましてコロナ対策関連を重点化し、募集を開始する。同時に、台風シーズンが到来するということに備え、併せて自然災害への迅速な対応に競輪・オートレースの社会貢献事業として前向きに取り組んでいくという準備をしております。

以上でございます。

○岡委員長　ありがとうございます。

公営5競技で競輪の施行の足並みがそろわなかったということでございます。

それでは、ここで委員の皆様からも御意見をちょうだいしたいと思います。一人当たり2～3分で御発言いただければと思います。

三屋委員が中座されますので、先をお願いいたします。

○三屋委員　先ほどのコロナの対策のところでは1点お聞きしたいのですけれども、ガイドラインがどこにあったのかちょっと分からないのですけれども、ガイドラインを通じてというふうにございましたが、そこでは観客の安全・安心はどう守るのか、あと、選手に

どのように安全にやってもらうのか、スタッフの安全はどうなっているのか、ちょっとだけ教えていただいてよろしいでしょうか。

○岡委員長　これはどなたが、笹部さんですかね。

○笹部オブザーバー　業界のガイドラインにつきましてはホームページ等に掲載しております。まず、基本的な考え方でございますが、競輪選手が100人近い参加人数だったところを、これから、特に7月から大幅に人数を減らして、レース数も普通であれば12レース行うところを9レースでやったり、参加選手の絶対数を減らした対策をまず講じていきます。その際、検温、行動記録、365日自分ではかり、前検日の日に持参し、施設の中に入る前に、手前でチェックする。こういうところから、まずコロナの感染対策を徹底して実施しています。

あと、食堂ですとかお風呂ですとか、3泊4日、いわゆるホテルみたいな状況になるのですね。それに対しましては、選手宿舎というのが自前でありまして、基本、そこは4人部屋なのですね。その部屋は、競輪場によって異なるのですが、大体30から40～50、それぞれまちまちあります。さすがに4人部屋はないだろうということで、今回は空気の換気を徹底するとか、またマスクは義務化、そういうことを通しながら、可能な限り2人部屋にしているということ。あとは、可能な限り選手がいろいろなものに触らないように、当方のスタッフがそれにかかわって対応していくというような、感染拡大を極力防ぐやり方で対応しているところでございます。

また、お客様につきましては、今現在、それぞれの場のほうでガイドラインに沿った対応が十分なされておりまして、また、それに対しましても、例えばお客様が入ってくる際、マスクは義務化ですとか、また車券を買う際に、マークカードシートというのがあるので、鉛筆、そういうものはなるべく自分のものにしてください、そういうような配慮と、あと警備員さんが巡回しながら、消毒したり、マスクをかけていない人には注意を促すとか、そんなような周りへの配慮というところからお願いをいたしたところ、既に武雄さんですとか玉野さんはやっているのですが、今現在は結構お入りになる方が注意されている。サテライトのほうもそのようなお話は聞き及んでおります。

○岡委員長　三屋さん、よろしいですか。

○三屋委員　抗体検査とかPCRを選手は考えるのですか、それとも厚労省さんがサポートして下さるとかというのはないのでしょうか。

○笹部オブザーバー　まずPCR検査については、今現在検討の俎上には上がっていま

せん、中央団体として。それよりも何よりも、まず感染予防という部分に競輪選手は注意を払うことということで、徹底した行動制限をまずお願いしていること。また、私個人、詳しいことは分からないのですが、抗体検査というのはプロ野球でもやったり、その後の次のステップの陽性が出た場合のPCR、しかもそれをやり続けないと意味がないというお話も聞いております。

そういう意味で、競輪選手と野球選手を一概に比べるわけにいかないのですが、一番の違いは、競輪選手は走って何ぼなのですね。野球選手の場合は年俸でやっているのですが。ひとたび陽性ですとかになると、はっきり言うといろいろな問題が生じ出る。これをやるためには、制度的な部分をきちっと関係者集まった中で、また義務ですとか自己負担の問題ですとか、そういう問題も抗体検査にはいろいろとあるようだというので、確かに免疫学的な調査は競輪選手、どのくらい罹患しているのだろうというのは必要かもしれませんが、これで防止はできないだろうというのも一方であるということで、この件についてはその程度の認識です。

○岡委員長　では、三浦さんからも補足をお願いいたします。

○三浦室長　補足をいたします。実際にPCR検査を受けている選手は今いないのですが、ガイドラインにつきましては奈良県立医大の笠原先生に監修していただきまして、選手やスタッフの3密の対策を具体的にどうとるのかといったところをちゃんと示しておりますし、観客につきましても、同様にガイドラインの中に具体的に書き込んでおり、それに基づいて各場がきちんと対応するという事になってございます。

PCR検査につきましては、具体的に選手の感染が疑われるという状況になりましたら、それは必ず行うということになってございます。

○岡委員長　よろしいでしょうか。

それでは、次から名簿順で行きましょうか。大西委員、2～3分をお願いいたします。

○大西委員　どうも御説明ありがとうございました。

全体の中期基本方針の評価というところは、入場者は減りながら売上げは上がってきていると。直近のコロナはちょっと緊急事態的な話なものですからしょうがないとして、そういった取組がすごくうまくいっているのではないかなというふうに私は感じたのです。そういった中で、売上げが上がっている中で、ちょっと聞き漏らしたかもしれないのだけれども、裾野の例えば競輪について言うと、参加する人が増えて、インターネット投票も含めた売上げが上がっているのか。来る人は減っている、だけどネット投票は増えて売上

げが上がっているのか。個々の人を見て、新しい人が裾野として参加していい傾向にあるのか、それとも昨今の不景気で、インターネットなんかする人が一人当たり賭ける車券の金額が上がって売上げが上がってきているのか。その辺によって今後の課題だとかやっていくあれが変わっていくものですから、そこが一つクエスチョンとしてあったのですけれども。

あと、そのほかいろいろなセールスプロモーションをやってこられているではないですか。ミッドナイトですとかトラックですか、あれは、僕はすばらしいことだなと思って感心して聞いていました。私も今、手元でAbemaTVを見ているのですけれども、ちゃんと競馬・オートレースのチャンネルができて、昨日も見ていたのですけれども、大変解説なども丁寧に若い女性なども含めてやっていて、このあたりは前なかったと思うものですから、皆さん大変御努力を重ねていい方向にあると。ただ、まだまだやりようがセールスプロモーションについてはあると思うのですよね。

例えば今、将棋があるではないですか。同じチャンネルで将棋があるのだけれども、将棋もチームプレーでやっている。個人個人の殻を越えてチームプレーになっている。麻雀もMリーグというのができて、これも団体戦ですごく盛り上げているのですよ。だから、従来のやり方と違ったルールだとか見せ方とかショーによって、すごく裾野が広がってきているというのはあるのです。

競輪・オートレースなども、そういうふうにはレースの中継だとかその解説もいいのだけれども、さっきちょっとあったけれども、レースのやり方だとか見せ方だとかショーアップのやり方として新たな見せ方とかをやって、裾野を広げてニューカマーが入りやすい形にしていくというようなことも今後検討されてもいいのかなと思いました。総じて新しい取組も非常にうまくいっているのではないかなということを僕は感じました。

以上です。

○岡委員長 ありがとうございます。

大きなエールになったのではないかと思います。御質問のところは、後でまとめて御回答をさせていただきたいと思います。

では、絹代委員、2～3分をお願いいたします。

○絹代委員 ありがとうございます。あっという間にもう5年が過ぎようとしているのだなというのに非常にびっくりしました。

幾つかあって、コロナに関して私からも1点お願いというか聞いてみたいことがあった

のですけれども、PCR検査は難しいとしても、やはりファンとかそちらから見た場合には、選手がどんなふうに扱われているのかというのも非常に気になります。選手がリスペクトを持って扱われていてレースに臨んでいるというふうに見えないものは、なかなか観に行きたい気持ちにもなりませんし、ウェブ上に感染拡大予防ガイドラインが出されていたのは拝読させていただいたのですけれども、書類が「各自でクリックして読むように」と無造作に置かれているだけなので、例えば、どんな取組をして選手を守っていますといったような表示を積極的にJKAとしていただくとか、どんなふうに選手を守っているかということも一緒に出して、いかに選手たちがリスペクトを受ける存在なのかという演出につなげていただくということも非常に大切なのではないかなと思いました。

PCR検査というのもそこにつながるもので、毎回毎回するのは難しいにしても、「そこまでして選手たちの安全を守っています」という姿勢を見せることになり、価値があると思うのです。スポーツ庁が出しているガイドラインでは、後ろを走ってはいけないことになっていて、斜め後ろとか並走を勧めるガイドラインが今出ていて、わりと自転車関係は今非常に神経質になっているのですけれども、「競輪の選手たちは大丈夫なのか」という思いもファンのほうにあると思います。そういったところも少し気をつけて、配慮していただけたらと思います。

あと、すごく気になったのが250KEIRIN。すごく楽しみなのですが、広報宣伝のところにユニフォームの製作というのがありまして、ユニフォームは全く違うような種類のものになるのでしょうか。JKAのロゴがすごく格好いいものになっていて、願わくはああいうスマートなシャープな印象のものになってくれたらいいなと思います。あと、ちょっとつながることなのなのですが、今本場での観客を入れての開催がなくなった状況で、よりインターネット中継に皆さんが傾倒しているというか、インターネットでの中継を見てレースを応援したり車券を買ったりしている方が多いと思うのです。これがいっただけで続いてしまうか分からないのですけれども、そうすると、どんどんビジュアルにこだわっていかなければいけない。ビジュアル次第というところが非常にこれからの要素として強くなると思うのですね。

なので、いかに選手を格好よく見せるか、レースを熱く見せるか、カメラワークだけにこだわらず選手たちのレースを演出していくという切り口が必要なのではないかなというふうに思います。250KEIRINがその突破口になってくれることを祈りつつ、ちょっとこのユニフォームの製作というのが気になりました。

とりあえず私からは以上です。

○岡委員長 ありがとうございます。

選手をどう守っているかということとユニフォームをどうなっているかというのは後で御回答いただくとして、先に古野様からコメントいただきます。

○古野委員 お疲れさまです。先ほど御説明や御意見があったとおり、250の小型カメラの映像ですとか、オートレースの消音器含めていろいろと新しいアイデアが出てきて、魅力が増していると実感いたします。非常にすばらしいというふうに思っております。

インターネット、ミッドナイト含めて数字が伸びているのはすばらしいと思うのですが、もちろん、当然皆さんお考えのことだとは思いますが、どうしてもリアルのところは気になっていまして、結局43箇所を維持ということを考えたときに、このまま本当に車券の売上げが伸びていってもリアルに来場者がどんどん減っていったときに、43箇所というのは維持されるのだろうか心配します。結局その自治体さんの開催決定権というところとも関わってくると思うのですが、コロナが落ち着いた段階になるかもしれませんが、リアルを本当にどうするのかというところは一度しっかり議論をしたいなと思っております。

以上です。

○岡委員長 ありがとうございます。

リアルがどうなっているのかと。あと、やはり自治体の判断で開催の可否が変わると。これは本日の後段の議論でも非常に大きな検討課題となると思いますので、ここにメモさせていただきます。

では、次に松田委員、福岡からお願いいたします。

○松田委員 私が気になりましたのは、各施行団体の自治体の繰出金がどうなっているかということでして、施行団体の収益のグラフでは、1自治体を除いて全て黒字化されているということでしたが、たまたま黒字の大きい北九州市の資料を拝見しましたところ、実は昭和38年から平成6年までは毎年競輪事業から一般会計に繰り出しをしていて、何と29年間で500億近い繰り出しがあったのですが、その後、平成7年から最近まで一銭も入っていないのですね。なぜこのような判断を各自治体が行っているのか。先ほど見せていただいた収益金の変化と実際の自治体への繰出金の関係というのも把握していけたらと思っています。

以上です。

○岡委員長　　ありがとうございます。

自治体の繰出金についてですけれども、これは、今日は多分データがないのではないかと思いますので、これも検討課題として中で分析するようにしたいと思います。

では、最後、山本委員お願いいたします。

○山本委員　　今回、確かに競輪だけ中止してしまったというのは、見ている側から見ると、えっ、どうして競輪だけというのはあったのかなと思います。競輪は選手数が多いため控室等密になりやすいなど、そういう事情もあってやむを得ないというのは私もある程度は承知しているのですが、どうしてそうなったのか。今回対策をして、開催を続けますということは非常にいいことだと思いますが、中止するにしても継続するにしても、何らかの方法でお客さんにうまく情報を出してあげるというのは、今後、第2波、第3波が来ることがあった場合に必要になることではないかというふうに思っています。

一方で、ネットの投票が非常に伸びていると思ったのですが、そういう意味では業界として検討するにはいい機会であると思います。先ほど大西委員から、ほかのところから競輪に入っていらっしゃるのですかというようなお話がありました。私もインターネットの中継を見ていると、買ってもら、楽しんでもらうための情報というのは、工夫はどんどんされているのですが、ほかのところから入ってもらうためには、もっともっとあってもいいというふうに感じています。

今までのカメラワークはテレビから来ていると思うのですが、インターネットで見せるときに、また出し方が違ってくると思いますので、そのあたりもぜひ業界として前向きに取り組んでいただければというふうに思います。

以上です。

○岡委員長　　ありがとうございます。

今まではリアルだったものがインターネットのほうに大きく変化をされていて、今や半分を超えているという状況の中で、車券を買われる方の属性ですとか、どれぐらいが1回でお金を使う金額なのかとか、そこら辺の分析がないとなかなかマーケティングの施策も打てないよねということだと思います。今後もその分析はしていくと思いますので、少しこちらでお預かりさせていただいて、絹代委員の御質問で、選手を守るためにどういう取組をされているのかということと、250KEIRINの公式ユニフォームの検討状況、こだけコメントをいただけますでしょうか。

これは笹部さんではなく佐久間さんですかね。どなたがよろしいのでしょうか。――笹

部さんがお答えいたします。

○笹部オブザーバー 250KEIRINの件につきましては、実施主体、まず我々がサポートする部分というのは当然振興団体としてあるわけでした、経費に関わる問題ですとかいろいろ協調しながらやらなきゃいけない問題なもので、本日、そういう答えは持ち合わせてきていないのですが、ただ一つ言えるのは、ユニフォーム一つとっても、今までは車番色という、あくまでも1番から9番が走っていて分かる、そういうイメージをお持ちになろうかと思いますが、今回の250KEIRINは、実は1番車からは並びません。それはなぜかという、先ほど申し上げたとおり、前検日の日に毎回参加するたびに選手の方は200mのタイムを計測します。それでタイム順に序列をつけます。レース、6人なら6人乗ります。タイムの速い順に1番車、2番車、・・・と番号を付与します。この6人の中で彼が一番速かったよ、コンマ幾つですよみたいな。普通、1番車が一番内側ではないですか。それが抽選結果によっては一番外側に行ったり——有利、不利というのは実は競輪はあるのですね。ただタイム順というものをもって、お客さんから見れば、あえて予想紙を見なくても、この人がタイム1番と分かる。色が分かっていなければだめですけど。ですので、その人を一着に固定して5点買えば当たるかもねと。

そういう意味ではユニフォームの色とかそういう部分については、これからインドアに合うようなデザイン性ですとかスポーティー、風圧ですよ、空気抵抗、そういう素材がないと彼らもきちっとした走りはできないのではないかなと、そんなような思いであります。

○岡委員長 ありがとうございます。

ユニフォームについては前々からいろいろなお話があって、今後ビジュアルにこだわって、よりお客さんにとっても楽しめるものになりそうでございますので、期待をしたいと思います。

では、選手をどう守っているかということについて、最後、佐久間さんからお願いいたします。

○佐久間オブザーバー 守るといいますか、先ほど笹部会長のほうからも説明にありましたように、例えば、参加したときに大人数であれば感染のリスクも高まるということで、選手数を減らして、居室、宿舎あるいは参加地の管理棟での選手同士の接触を下げる、控えると。

○絹代委員 ガイドラインはもう読んでいるので理解しているのですが、それが分か

るように出ていないというのが問題かなと感じました。一般のお客さんから、選手が守られているのだと分かるように、どこかにそういうことを分かりやすく説明するページを作るなど、対応できないでしょうか。選手がちゃんとした扱いを受けていないと思うと、観に行く気にもなりません。運営への信頼性にもつながると思うので、そこが変わったらいなと思いました。

○佐久間オブザーバー 分かりました。それはJKAさん、全輪協さんとも相談をして、例えばドットジェイピーであるとか、私たちのホームページであるとかというところに掲載をするようにしたいと思います。

○岡委員長 ありがとうございます。

JKAにしても選手会にしても、出したい情報よりはお客さんが知りたい情報をより出してあげるというような姿勢が今後必要なのかなという気がいたします。

では、後半戦に入りたいと思います。後半ですけれども、議題3と4について御説明いただいて、また意見交換を行いたいと思います。事前説明をしておりますので、要点だけ、資料3、4-1、4-2を手短に笹部会長からお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

○笹部オブザーバー この内容につきましては要約版という2枚の紙で御説明をしたいと思います。また、細かい内容については後ろの資料3-2というところに入っておりますので、そこを見ながら御覧いただければと思います。

まず、(1)は「競輪最高会議」の抜本強化という内容になっておりますが、基本的な内容については2年前に大幅な改正をしたと。一番の内容は、迅速性よりも全施行者に対して最高会議のプロセス、議事内容等々を見ていただけるように通知するように徹底をしたということが大きな違いということ。それと、会長は全輪協会長ではあるものの、議長については互選にしましょうよということで、結果、私が拝命しているということで、いずれにしても最高会議の透明性確保に関係団体協力してやってきたという内容になっております。

また、(2)のJKAの組織・働き方改革、内容は別添の資料のほうで見ていただければと思っておりますが、基本的には、JKAは統合後それらに合わせた事業環境で人材育成ができているのか、またリーダーシップや専門知見はどういう流れでやっているのかなど、基本的な内容が当委員会からの御指摘でありまして、それに向けて、一体となった体制づくりを現在まで行ってまいりました。今現在、統合後の姿としては、人事制度の統一やさ

らなる処遇体系の構築の見直しを行っているところということでございます。

あと、売り場の定点観測、そして組織関係という部分、これも最終的には活性化をどのように人的な人材でやるのかという部分と、加えて観測システム、定性的な観測をしてお客様の意識や施行者さんの意識、民間事業者さんの意識、そういうものを施策に展開するためには、それを読み解く力と能力がなければいけないということで、これらも含めて改善をしているところです。

また、3の競技実施部門、これも現在品川本部と結んでおります43箇所の現場業務の統一を図ろうということで、前検日の検査に当たる検査工程の集約ですとか、それに伴う作業の標準化等々、業務改善—P D C Aを回しながら標準化を推進したという内容になります。

また、4、5、6の専門人材配置、人事評価制度、組織の透明性等につきましては、今現在、統合前の高年齢というか、例えば50代の大きな山がございます。これにつきましては、10年先の平準化を目指すために、新卒、中途採用を30名程度以内、毎年入れています。それによって10年後のイメージをもう少し平らにしていこうというような人材配置計画を推進しております。

次のⅡ、Ⅲ、投資のため、また施行者間調整ルール、インセンティブについては、法律改正のスキームを変えて、新たに業界が取り組むモデル事業として毎年1億5,000万ほどの予算を立てながら、業界が提案する事業に対して手を上げた施行者に対しまして、1件500万当たりのP R支援をサポートする。先ほども競輪の売上げの一番悪かったFⅡ関係、これを強化しようということで、これらに対するモデル事業に対して手を上げたところ、そういうところにP R支援という誘導を図りまして、9件ほど今現在2020年はやっております。2019年度は後期からやり始めたのですが、これについても9件ほどの施行者さんが手を上げてまして、売上向上につながっているモーニングのさらなる前倒し、またFⅡの新たな取り組みとして概定番組を後ろに持っていく、例えば新人選手をメインイベンターとしてやるとか、そういうような新たな取組に対するP R事業を展開し、今現在いろいろな取組が進行中であるということになります。

続いて、Ⅳ関係でございます。この内容につきましては補助事業を指します。先ほどコロナ関係がありましたが、それ以外にも今後の部分といたしましては大阪万博、これは2025年を予定しておりますが、これらに対する支援事業ですとか、またギャンブル等依存症関係の研究事業等々、コロナ問題で必要な事業、社会的課題に対する解決や変化に即応す

る補助方針を前倒しで実施していくという内容になっております。

250KEIRINについては、先ほどの説明で省略させていただきます。

最後、一番下の欄、ギャンブル等依存症関係、これにつきましては啓発週間のポスター等々、継続的な依存症対策を実施中ということでございます。

それでは、続いて資料4のほうに行きたいと思うのですが、いかがいたしましょうか。

○岡委員長 続けてお願いいたします。

○笹部オブザーバー 資料4-1、競輪事業の持続的発展に向けた中期基本方針、これにつきまして、まずJKAの担当部分を御説明したいと思います。

まず、2ページ目でございます。売上目標の、最終年度2020年度は7,000億ということ掲げ、施行者収益は160億円以上、競輪場は43場維持、選手数の2,400名を維持。こういう前提で、一つ売上げと収益というのが今回のコロナで大きく番狂わせになったという内容になります。

次のページをお開けください。4ページでございます。不採算レースの改善というところ、これにつきましても、先ほどから出ておりますFⅡというのが、開催数が一番多くございまして、これの売上改善ということをもって競輪全体の売上浮揚につながった。このためには、一方で開催日程の分散化、なるべく競合させない、またFⅡそのものの魅力アップ等々、そういうことを狙いとして収益性向上を図る施策で取り組んだ結果、特にFⅡの売上向上は目覚ましいものがあったという内容に結果としてなっております。

飛んで8ページでございます。先進的な取組を始めとする業界内情報共有の仕組みの構築、これにつきましても先ほど施策に結びつけるような情報共有をしなければいけないということで、そういう場を作りつつ、新たなテーマとして他のスポーツとのコラボ。そういう意味では3枚の写真を掲げております。eスポーツ体験ということで、宇都宮競輪場で展開しつつ、ほか10件をサポートしました。

また2つ目、写真②のほうでございますが、これは広島競輪場でサンフレッチェ広島とのコラボイベント。また、立川競輪場でBリーグ・アルバルク東京とのコラボ等々、実際はガールズの選手なども入れて喜ばれたという部分で、好評いただいた内容になっております。

また、民間設置者に対しましては、特にKEIRINGランプリみたいな集客が多く望まれるところに対しまして、その効果を高めるためのPR素材などの提供を行って、来場お客様の増進・増加に努めたという内容になっております。

続きまして、10ページでございます。マーケティングの能力のある民間ポータルサイトなどの活用の明確化という内容でございます。この内容につきましては、データが当方、民間ポータルサイトさんとの契約関係は一切ない中で、経営情報をいただくのは難しい状況が長く続きました。しかしながら、全輪協さんのほうから民間ポータル側に要請を行うということで、今後そのあたりの数字が出されてくるのではないかとということで、それをもってまたそういう分析を開始しようという考えでございます。

飛びまして13ページです。これについては、新規顧客獲得策の戦略的な実施と継続的な実施体制の構築ということになります。これにつきましても、自転車競技ファンというのが一番競輪に近い層だろうということで、前から行っておりますジャパンカップサイクルロードレースに対しまして、競輪選手がそこに赴いてアピールしたり、そういう意味では自転車競技だけではなくて、スポーツシーンとのコラボを今後やっていきたいということ。それと、一番右下にあります「るるぶ」、これについてもフリーペーパーという部分の力を借りながら競輪の所在地域一エリアと食べ物、そういったようなもので、競輪に一番遠い、またオートレースに一番遠い方々との接点をこういう形で近づけたという内容になっております。

以上がJKAとしての本編の内容でございます。

引き続きまして、全輪さんのほうから担当のところをお願いいたします。

○奥野オブザーバー　それでは、全輪協の奥野でございます。どうかよろしくお願いいたします。

この中期基本方針で私どもが主担当となっておりますのは、7ページの市場規模に応じたビジネスモデルの構築についてが、まず最初でございます。この件につきましては、丸の3つ目でございますけれども、18年3月のこの小委員会において、施行者間の調整ルールと資金面でのインセンティブが必要であるという御提言をいただきました。この提言に対する検討を重ねてまいりましたけれども、丸の5つ目と6つ目でございますが、最終的に資金面などの法律改正が断念された結果、その後、関係団体におきまして競輪事業の持続的発展に向けた取組の骨子を取りまとめております。この骨子に基づきまして、先ほど笹部会長からもございましたけれども、昨年度から施行者間の新たな取組をサポートするモデル事業制度を実施しておりまして、昨年度は10の取組事例がございました。また、競輪事業活性化競輪による施行者の財源支援を2021年度から新たに行うべく、現在、どのような内容にするかということで制度設計を進めておるところでございます。

続きまして、私どもの担当でございます14ページをお開きいただきたいと存じます。既存商品の売上げの最大化という項目でございます。この既存商品の売上げの最大化では、最初の丸にございます重勝式車券の売上げの最大化を目的に、重勝式車券D o k a n t o の発売対象開催をこれまでGグレードの開催だったのに加えまして、F I 開催にまで拡大をしております。その結果、右側のグラフにありますとおり、2016年度発売当時と比較して車券売上げを大きく伸ばして推移をしてきております。

続きまして、日本競輪選手会・佐久間理事長にお願いいたします。

○佐久間オブザーバー 説明させていただきます。

まず、選手会として担当しました課題、16ページから17ページになりますが、競走環境の安定化という観点から、競輪選手が日々の鍛練やレースに全てを注ぎ込める環境の整備が必要と判断をしていただきまして、積年の課題でありました選手共済制度について業界全体で支援をいただき、現在、安定的に運営をされております。

続いて、選手の魅力向上による活性化という課題につきましては、2つの要素があるのですが、まず1つ目としまして、18ページから19ページにあります、競輪の商品価値を上げるために世界で戦える選手の育成を目指すというものです。J K Aさんの協力によりまして競輪選手養成所、元の競輪学校なのですが、競輪選手養成所のコーチとして海外から世界のトップコーチを招聘していただきまして、併せてハイ・パフォーマンス・センター、これは競技の強化施設なのですが、その強化施設でナショナルチームの強化コーチとして指導に当たっていただいております。同じ方に学校、養成所と競技のほうのコーチも兼務していただいております。その成果の一つとして紹介したいのは、ケイリン種目の世界国別ランキングというのがありますが、こちら、男子は2019年が世界ランキング1位、2020年、現時点では2位となっておりますし、女子は19年が5位、現時点で6位という結果を残すなど、急成長して成果を如実に表していると思っております。

世界のトップコーチ、ナショナルコーチには、一般の競輪選手にもトレーニングDVDや講習会によって世界基準のトレーニング方法や理論を伝授してもらっております。また、ハイ・パフォーマンス・センターの運営についてですが、全輪協及び競輪施行者の理解と協力により国際トラック競技支援競輪というものを開催してもらいまして、その収益からハイ・パフォーマンス・センターの運営や選手の支援に貢献をしてもらっております。

選手の魅力向上による活性化、2つ目ですが、20ページから25ページにあります

けれども、お客様が望む選手情報の提供についてです。こちらについては、選手会ホームページをリニューアルいたしまして、ふだんメディアではあまり取り上げられないA級選手や新人選手を対象に、ホームページやツイッターにより情報を発信しております。内容としましては、好調選手をピックアップしてみたり、各支部の支部長からの一押し選手ということで紹介をしてもらって、お客様の理解に役立つように掲載しております。

また、イケメン紹介なども掲載をしたり、あと、選手のCSR活動についても情報掲載しております。もう一つは、新たに競輪選手のファンクラブを立ち上げまして、情報発信やグッズ販売などの活動を行っております。

以上が、中期基本方針において選手会の進めてきた課題と現況です。

○岡委員長 ありがとうございます。

笹部さん、後ろ締めなくてよろしいですか、28ページのところは。

○笹部オブザーバー それでは、資料4の最終ページ、2021年度以降の中期基本方針についてということで。連続6年の対前年増ということは終わったものの、7,000億については苦しくも断念せざるを得ないということで、それで終わっていいのかという問題。それと、当初はオリンピックを踏まえた7,000億というのも実は計算上していたわけでした、その辺がもろくも崩れたということ。ただ、コロナ禍の外部要因によらないで内部要因として問題があるのではないかと。また、過去の反省も多々ある中で、基本は、当委員会でも言われておりますお客様第一主義、お客様目線で本当にやっているのでしょうかという質問に対しまして、どれだけ関係者はきちっと答えられるかなということで、いま一度この関係者の認識を共有して、売上浮揚のための施策を講じ、また新たな視点によるFIIの収益性の改善を含めまして、地方財政への寄与と社会貢献という意味で、競輪・オートレース事業を一段上のレベルへ持っていきたいと思っています。

改革の主眼は、今までと大きく異なるわけでした、コロナショックがどういう形で落ち着くかは別としても、今回は本当に不退転、後がない、関係者危機感を共有して事に当たらなければならない状況と。これから何が大事か実態に踏み込んで、今求められているものは何なのか。また、制度のゆがみや、この時代に合っているかどうかも含めて、競輪・オートレースの健全な事業基盤の仕組み、また将来の事業に対して安心できる仕組みを考えて、この業界が和らぐような仕組みに建て直さなければいけないと思っております。

そういう意味でこれからの競輪・オートレースのあり方を問い直す意味においても、ピンチをチャンスに変えると。課題の本質にきちっと向き合って関係者が共有し、開始に向

けた取組を行いたいと思いますので、当委員会の御指導をぜひお願いしたいと思います。
そういう意味で考えを述べさせていただきました。

○岡委員長 ありがとうございます。

今、制度設計の振り返りと中期基本方針の最終年度に当たって過去の振り返りをさせていただき、さらに笹部会長から、不退転の決意で臨む、ピンチをチャンスに変えるというようなお話がございました。前半部分におきまして、売上げのデータ分析とかビジュアルとか売上げの数字が自治体の繰出金にどのように還元されているとか、インターネット時代の競輪の在り方、このようなことについてコメントをちょうだいしましたけれども、次期中計策定に当たってぜひこういう論点を盛り込むべきではないかというものがありましたら、また3～4分ぐらいで御発言いただければと思います。

今度は逆から行きますかね、山本さんからお願いいたします。

○山本委員 説明ありがとうございました。

こちらの中で、その昔はFⅡ開催というのがなかなか売れないと言っていたものが、ミッドナイトというのが非常に起爆剤になって、だんだん昼間のほうも売れてきたという実態が出ていると思います。1つは、7車立というのが私個人の感覚よりも非常にお客さんに受けたのだなというのを感じてはいますし、あと、7車、9車、あとグレードというバリエーションがいろいろある中で、それぞれのお客さんが、自分が買いたい、見たいというものを選んできているのではないかなということが少しかがえるのではないかと思います。

まして今回、無観客開催になってしまった中でインターネットだけの販売で伸びているということを考えると、ある程度いろいろな選択肢を常にいろいろな時間にお客さんに与えていくというような取組というのが必要なのではないかなと。KEIRIN.JP（競輪オフィシャルサイト）というところをお客さんは多分買おうと思ったりして見るのですが、そうすると、開催している場というのがずらっと並びます。実際それが日によって結構違いがあるというようなのが、長年ずっと懸案というか気になっていたところなのです。ましてやインターネット投票が中心になってきたということを考えると、基本的には同じ1日の中で時間帯のバランスをうまくとるとというのが一つは必要になるのではないかな。一方で曜日ごとの売れ行きのデータは明確には分らないのですが、昔見た感じでは、インターネット投票に限って言うと、曜日が余り影響しないというふうに覚えています。ですから、平日、休日含めてある程度バランスのよい開催の日程とグレードの配置、それか

ら朝、昼、夜、ミッドナイトという時間帯での配置を、今回この後に構築していくというのは必要なのではないかな。

さらに全輪協の資料に書かれていますけれども、活性化競輪の実施は、そのような販売網というのを維持して、それでお客様のためにもなるし施行者の利益というのでも確保するという目的だと思います。そういうことを考えると、インターネット販売にしても、場外発売にしても、お客さんに選択肢をなるべく与えるという方向に来ているのだと思います。開催日程等々のバランスを、今は個別の調整に委ねられていますが、ある程度そういう認識を関係者に持っていて、お客さんにも分かりやすく、開催がある程度満遍なくあるような状態というのをこの先でつくっていければいいのではないかなというふうに思います。

○岡委員長 ありがとうございます。

選択肢を多く持ってもらおうというのは、お客さんにとってはおもしろい競輪になるのではないかと私も思います。

では、松田さん。

○松田委員 私は競技自体には余り詳しくないのですが、公営競技の目的を考えましたときに、地方財政の健全化であるとか自治体を含む公益をどうしていくかというところでどうやって公営競技が資するかという点から考えますと、先ほど申し上げた繰出金の扱いをどうするかということが1点と、先ほども関西万博の話が出ましたが、関西万博のメインテーマはSDGsなので、今後の計画策定の中にもそういう視点を盛り込んでいくということも必要かなと思っています。

それと、施設の活用ということで競技以外の活用の幅を広げることで、それが住民への福祉に寄与したり、従来であればMICEのユニークベニューとしての活用があったと思いますが、今後イベントの開催はなかなか難しいところがありますけれども、それを新しい生活様式の中でどのように生かしていくのかという工夫も必要になってくるのかなというふうに思っています。

あと、自転車やバイクの技術的な進歩が市民や国民の暮らしにどう寄与するのかという視点もスポーツとセットで組み入れていけたらなと思っています。

以上です。

○岡委員長 ありがとうございます。

公営競技のそもそもの目的に立ち返らなきゃいけないというところですね。

では、古野さんお願いいたします。

○古野委員 前回は申し上げたのですけれども、地域ということで地方創生を忘れてはいけないと思ってしまして、実は玉野市で、競輪場を使って選手との交流会とか、C C R Cに取り組んでおられるので競輪場を使った一般の方の体力の測定とか、そういう活動で競輪場に触れていただくということで、玉野の競輪場というのを地域の中の魅力ある施設ということで取り組んでおり、今一般社団をつくって、理事も当社から出してやっています。

43箇所がそういう存在であり続けるというところへの取組を各自治体さんにも考えていただいて、存在感をぜひアピールしていただきたいと思うのですけれども、先ほどの話とかぶりますけれども、そのときに各自治体さんのお考えとか、あるいは何らかの事情が働いて統一感がないというところが一番大きな課題ではないかなと思います。ぜひ3団体さんの中での意見の統一をもって、そして我々小委員会のメンバーとの意見の統一もあって、そのあたりの動かし方をそろそろ明確にしていく議論が必要になってくるのではないかなと思います。

あと、全く話は違うのですけれども、先ほどJ K Aさんの資料でオリンピック選手の御紹介がありましたけれども、もしかしたらつまらない質問になるかもしれませんが、例えば選手の年俸の話です。新田さんは今まで50勝されて9億6,000万生涯獲得賞金があつて、小林優香さんは62回優勝されて7,000万円というのは、もちろんレースの大きい小さいによって賞金が違うと思うのですが、単純な質問として、ガールズケイリンが人気が上がってきている中での女性選手のレースの大きさとか獲得賞金とかというのが、競輪を目指そうとする女性にとって魅力的になっているのかどうかというのを一つ質問させていただけたらと思います。

○岡委員長 ありがとうございます。

ここで今分かりますか、どなたか。

○笹部オブザーバー まず、プロ競技としての女性の進出という部分では、年俸とか賞金獲得が、いっても二千数百万だと思うのですよね。暮れのガールズグランプリというのが副賞含む総額1,000万でしたか、そういう金額で、本来はもっと上げていくという部分では、ガールズケイリンの売上げという寄与度というのはもう少し別な形で評価することも、今の御質問に対する今後の在り方なのかなと実は思っています。交渉当事者ではないものでそれ以上のことは言えませんが、やはり魅力あるプロスポーツであるというこ

とは標榜していかなければいけないということで、単なるギャンブルという枠にとらわれないで、これからは新たな領域での活躍。現実、競輪選手は男の人も女の人もさまざまな競技歴、素晴らしい方が、全ての大会、また国体級、世界級という粒ぞろいでして、その逸材を我々が十分まだ発信できていないということで、さまざまな取組の中で選手そのものの魅力をどう発信していくか。先ほど佐久間理事長のほうからも、選手会としての取組のお話がありましたが、もっとそれを発信していきたいということで、魅力あるガールズケイリンをさらに育てていきたいと思っております。

○岡委員長 ありがとうございます。

では、絹代委員をお願いします。

○絹代委員 先ほど笹部会長のお話の中に不退転の決意というのがありました。今は本当に五輪を目前にして絶好の位置にいるのだと思います。メディアでも五輪候補の選手たちが登場する機会が増えていますし、また、今候補になっている選手たちは、かなり人当たりもよくて、これから人気が出るのではないかとという方々が多いと思います。

すごくいいタイミングにあると思うのですが、これまでの状況を見ると、やはり本場に来場されている方が10年間で5分の1に減ってしまっているというのも事実で、今すごく怖いなと思っているのは、コロナの影響で無観客開催になって、どなたも場にいらっしゃらないのが通常になって、そのままずるずると流れていってしまうのではないかとこの点です。今まで足を運ばれていた方が今インターネットに流れているのかどうか。先ほど属性分析ができていないからという言葉があったのですが、そういった皆さんが離れてしまったのか、今逆にインターネットとか電話投票に切り替えていらっしゃるのか分からないのですが、今後を考える中で、場に来てもらえるものでないとこれから発展しないのではないかと懸念しています。競輪がスポーツという側面も持っている以上、やはりその場で見たい、共感したいという人がいないと難しいと思うのです。場に来てもらうというのにプラスして、同時で、先ほどお話ししたビジュアルを磨いていく。インターネットなどの中継で伝えていったときって、目視で今まで見ていたレースとはまた強調していく部分が違うと思うのですね。

プラス、インターネットというのがこれから常識というか定番になっていくと、立地であったりアクセスであったり、競輪場が持っていた強みみたいなものも変わってくると思います。これから、よりやる気のある場にどんどん中継の方法であったり魅力の出し方であったり打ち出していただいて、今スポーツツーリズムが流行しつつあるのですけれども、

あの場に行きたいと感じて、その自治体に旅をしに行く人が増えるみたいなどころまで描いてくる自治体さんが増えてきてくれたらいいなというふうに思っています。

やはり、ほかの競技を見ていても、昨年、ラグビーワールドカップが非常に大きな人気を集めたのですが、私の住んでいる町でも、ラグビーワールドカップのときにはユニフォームの赤白のボーダーの方々が、女性も男性もお子さんも、犬まであふれていたのです。

「あのウェアと一緒に着て、あそこで見たい」と思えるようなものが、たとえば野球やサッカーなど今支持されていると思います。これから競輪もぜひ五輪を契機にして、同じウェアを着て競輪場で見たい、応援したいと思ってもらえるようなものになってもらえたらというのと、やはり場に行きたくなる仕掛けというのがすごく重要なのかなと思っています。

ほかの公営競技を見ると、例えば競馬だとUMAB IとかUMA J Oみたいなサイトがあって、UMA J Oというサイトを見ると、すごく女性のつばを押さえていて競馬場に行きたくなるような情報発信をされているのです。競輪の発信サイトを見てみると、競輪もここ数年で女性の登用が増えてきたり、組織を本当に大きく変えてくれていて、競輪から出てくる情報がすごく軟らかくなってきていて、いい動きだなあと思うのですけれども、「場に遊びに行きたい」と思わせるような方法の情報というのがもしかしたら少ないのかなと感じます。

競輪のレースをこうやって見る、こうやって賭けるとすごいよ、いいよというのはいろいろな番組であったり増えてはいるのですが、場に遊びに行きたいと思えるような、促進するようなものが少ない気がしますので、ぜひやる気のある場に、そういった人が足を運びたくなる、グルメであったり——それはちょっと分かりませんが、何か提案していただいて足を運んでもらう、プラス、ビジュアルを磨いてインターネット中継するところにつなげてもらえたら、あとプラス、今ほかの自転車競技は全部止まっています。今後再開の見通しもあまりない状態で、いろいろな方々がレースの観戦に飢えているのですね。こういうところをチャンスとして、今ロード界からもどんどん競輪に選手たちが転向していますので、ぜひこういったファンもつかめるような形で広報していただけたらいいなと思います。

以上です。

○岡委員長 ありがとうございます。チャンスに変えるということですね。

大西さん、お願いします。

○大西委員 皆さんおっしゃったこととダブるところがあるのですが、競馬とか競艇と違って、競輪あるいはオートレースもそうだと思うのですが、何が違うかというと、さっきから出ている選手の方の個々の魅力というかそれが、ふと思うと、僕よく知らぬけど、フィジカルの力だとかメンタルな駆け引きとかを含めてすごいと思うのですよ。そのすごさが何となく、さっき選手の魅力度を上げるという言葉もあったのですが、実はもう既に選手の方には十分な魅力があって、その出し方とか訴え方にもうちちょっと工夫をする——さっきユニフォームの話もあったのだけど、確かにああいうショー的なことも含めて、まだまだ可能性があるのではないかなと思ったものですから、そこはこの中長期の中で、ショー的な要素になるけれども取り組んでいただければなと思いました。

事前のレジュメにあって、今日はあまり議論がされないのだけれども、地方公共団体の主催的な立場の問題、これは例のばらつきがあつたりして個人的には非常に興味があるものですから、事前のレジュメにあるように極めてこの辺が大事で、本質的な課題だと。ばらつきがあるというのだったならば、なぜそうなのか、それをどうしていくのか。43場を維持していくとさっき目標があつたけれども、それ自体本当に正しいのか。やる気のない自治体をどうやってやる気にさせていくのかというようなこと、僕、素人ながら今日よく分からなかったのですが、そこは課題かなと。

以上です。

○岡委員長 ありがとうございます。

では、最後、三屋さんお願いいたします。

○三屋委員 多分今までもインターネットで大分買う方が増えてきたと思うのですが、コロナで一気にオンライン化って進んだと思うのですね。会議とかもほぼほぼオンラインでやっていることが多くて、これから競輪もオートレースもどっちかという勝ち負け、要するに投票の部分は物すごくオンライン化するだろうなと。そっちの傾向のほうに行くので、多分事業計画自体もそっちを中心に立てたほうがいいのではないかなと思っています。ただ、施行者さんのサステナブルな経営というのも当然必要になってきますので、場所、そこに実際行かないと体験できないこと、実際に行かないと見るができないものというふうに、要するに人に触れるかギャンブルのところに触れるかという二極化にどんどん行くような気がしています。だから、競輪場に行って、オートレース場に行って勝ち負けとか、当たった負けたとか、勝った負けたみたいな感じの今までのビジネスモデルから大きく転換する時期に来ているのかなと。そこはもう割り切られたほうがいいのかな

と今感じています。

実際に行かないと駄目なものは徹底的にそっちに特化する、施行者さんのほうは。人がやっているというところで、人の筋肉の美しさとかいろいろなスポーツとコラボレーションしていくとか、実際に行かないと——だから、二次元では分からない、実際に行ってみて初めて分かる三次元のよさというもの、いかにそこに魅力が出せるかというのはすごく大事だなと思っています。そこが施行者さんごとにばらつきがあるのだとしたら、マーケティングのところはセンター化してしまっ、ある程度一つのモデルみたいなものを提供するというやり方もあるだろうし、施行者さんのほうでそこをそれぞれが考えてくださいという物すごいばらつきが出てくる、でも、それもしょうがないよねというのであれば、それはそれでいいと思いますし、43みんな1つもつぶさないのだというのだったら、マーケティングの部分はセンター化したほうがばらつきは出ないでいいのかなというふうに感じました。

以上です。

○岡委員長 ありがとうございます。

皆様から大変有意義な御意見をちょうだいいたしまして、まことにありがとうございます。これまでの議論を踏まえまして、私からも1つだけ申し上げさせていただきたいと思います。

最高会議の在り方について、まさに先ほど大西さんがおっしゃったことと結びつくのですけれども、これは2018年7月の制度設計においても議論がなされましたけれども、その仕組みの下、今回のコロナ禍のようなBCPが起こったときに、競輪の開催について足並みをそろえることができないということが分かったわけです。今後もこのコロナ禍というのは第2波、第3波が来ると言われていますけれども、開催の可否を決める権限は最終的に誰にあるのか、足並みをそろえて日本でワンチームができるのか、次期中期計画の数字には誰がどのような責任を持つのか、ここを今後さらに明確化していかなくちゃいけない。仮にワンチームになれないとしたら、これは先ほど三屋さんがおっしゃったことなのですが、であれば、プランBとしてどういう体制で行くのか、これについても頭の体操が必要であると思います。誰もが一致しているのは、このままでは駄目だということです。それを踏まえての次期中期策定になると考えております。

それでは、最後、高田局長から御発言をお願いできますでしょうか。

○高田局長 2時間、いろいろな議論ですぐ経ってしまいました。本当に今日はお時間

いただきましてありがとうございました。今日は私、皆さんと名刺交換させていただいたと思うのですけれども、私からすれば2枚目の名刺をいただいた方が多くて。と申しますのも、かつて上田審議官のポストで、まさに石黒理事長の当時、2年ほどずっと担当をやらせていただきました。

本日、5年ぶりにこの審議会に出させていただきますと、当時の議論の中で進めてきたことで随分進んでいる面もあります。例えば、当時は、まだ売上げが反転していない状態だったのですが、それから見れば隔世の感もあります。また、やはり積み残った議論の中で、今日またそれが繰り返されているなど感じたものもあります。例えば、競輪最高会議の強化というのも本日の議論で出ていましたけれども、良い意味では、関係者のコンセンサス・合議制なわけですが、こういうコロナ禍のときのリーダーシップで対応を間違えば、ほかの競艇とか競馬とかと比べても割損な立ち回りになってしまいます。

あるいは松田委員のほうからご意見もありましたけれども、繰入金というのか繰入金というのか、自治体側の財政の問題があります。例えば、ある良い場、グレートレースをやるようなところでも、自治体は競輪の利益を地元の環境整備には費やしてくれて、駅前はきれいなのに、競輪場は昭和の施設みたいに置き去りにされている所が有ったりします。逆に北九州小倉では繰り出しを減らして、むしろそういう設備面の建て直しに資金を入れている、このため繰入金がなくなっている、競輪に頑張ってくれているという状況です。

ニワトリで食べてしまっただけで卵を産めなくなるのか、ニワトリを育てて卵を産めるようにしていくのか。5年前売上げが下がっている頃の議論は、とにかくどうしたら絞れるのかという、どちらかというとはぎ取るような発想のほうが多かったのですけれども、全体が反転して売上げが増えていく中で、どう再投資して魅力あるものにしていくかという、健全な方向の議論になり、オリンピックにもつながってきていると思います。

今年は中期基本方針のまに見直しということですので、ぜひ皆様のお知恵をいただいて、やる気のある自治体が成果をあげていかれるようなそんな仕組みを検討いただきたいと思いますので、是非よろしくお願いします。

○岡委員長 ありがとうございました。

それでは、事務局から、最後に今後の進め方についてお願いいたします。

○三浦室長 委員の皆様、ありがとうございました。

今回の小委員会では、本日皆様からいただいたコメントを踏まえまして、競輪業界内におきまして次期中期基本方針の骨子を検討し、それを委員の皆様にご議論いただく予定で

ございます。日程につきましては10月を目途に考えておりますけれども、追って調整をさせていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。

○岡委員長 ありがとうございます。

本日は、新型コロナの影響がまだ続いている中でのリアルでの御参集でしたけれども、一日も早く収束を願うばかりでございます。皆様、これからもどうぞ安全にお過ごしただければと思います。

それでは、以上をもって閉会といたします。どうもありがとうございました。

——了——